

令和2年1月25日(土)

漸化式について

第112回数学教育実践研究会

数実研会員 安田富久一

＜漸化式冊子＞レポート発表の経緯

- 35年前、高校の数学教員をしていたときに作成
その後、2年生に、手を加えながら冊子を渡していた
- 先日、漸化式の特性方程式について質問を受けた
この冊子を渡した。
- 2年ほど前元教え子(約30年前の)が
「“この冊子で漸化式のことをよくわかった”」
という話しをしていたというのを耳にした
- いつか、数実研でこの冊子をレポートしようと思っていた。
1ヶ月ほど前：次年度の最初にレポートする予定でいた
先日学生に渡したのを機に、今回レポートをすることにした。

＜漸化式冊子＞工夫してみたこと

- 速戦用に“このようにすれば解ける”というのを先に示す
- あとで“何故それでうまくいくのか”という数学的な部分を示す
- 更に、何故そうしたくなるのかについて、私見を示す
- 『 $b_n = 5a_{n+1} - 1$ とおく』を、単なる記号の置き換えと思うのか
 $b_{n+1} = 5a_{n+1}$ とする解答を多く見た
 $b_{n+1} (= 5a_{n+1} - 1 + 1) = 5a_{n+1}$ としたことが推測される
- 間違いに気付かせるために、
 $\{a_n\}$ を元に新たな数列を作り、
その数列の名前を $\{b_n\}$ とすることを強調する
$$b_1 = 5a_1 - 1, b_2 = 5a_2 - 1, b_3 = 5a_3 - 1 \dots$$
という説明を加えた

＜漸化式冊子＞書き換え

- *PART 7* を完全に書き換えた。
- これまでののは、三項間漸化式の一般項を行列利用で求める方法
- 今回は、最近気になっている：漸化式＝一般項を求める問題
という図式が生徒の頭に執着している気がする
- 一般項を求めることが漸化式の最重要問題ではない
ということを示したかった。

<一般項を求めたい?> 冊子17ページ

【問題】 漸化式
$$\begin{cases} a_{n+2} = a_{n+1} + a_n \\ a_1 = 1, a_2 = 1 \end{cases}$$

で決まる a_n は次の等式が成り立つことを示せ。

奇数番目の項の n 項の和 :

$$a_1 + a_3 + \cdots + a_{2n-1} = a_{2n}$$

偶数番目の項の n 項の和 :

$$a_2 + a_4 + \cdots + a_{2n} = a_{2n+1} - 1$$

であることを示せ。

<解答：奇数番目> 冊子18ページ

$$\begin{aligned} & a_2 + a_3 + a_5 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & a_4 + a_5 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & a_6 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & a_8 + \dots + a_{2n-1} \\ & \vdots \qquad \qquad \qquad \dots \qquad \qquad \qquad \vdots \\ = & a_{2n-2} + a_{2n-1} \\ = & a_{2n} \end{aligned}$$

<解答：奇数番目> 冊子18ページ

$$\begin{aligned} & a_2 + a_3 + a_5 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & \quad a_4 + a_5 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & \quad \quad a_6 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & \quad \quad \quad a_8 + \dots + a_{2n-1} \\ & \vdots \quad \quad \quad \dots \quad \quad \quad \vdots \\ = & \quad \quad \quad \quad \quad a_{2n-2} + a_{2n-1} \\ = & \quad \quad \quad \quad \quad \quad a_{2n} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \therefore & a_1 + a_3 + a_5 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & a_2 + a_3 + a_5 + a_7 + \dots + a_{2n-1} \\ = & a_{2n} \end{aligned}$$

<解答：偶数番目> 冊子18ページ

$$\begin{aligned} & a_2 + a_4 + a_6 + \cdots + a_{2n} \\ &= a_1 + a_2 + a_4 + a_6 + \cdots + a_{2n} - a_1 \\ &= a_{2n+1} - a_1 \\ &= a_{2n+1} - 1 \end{aligned}$$

<解答：証明らしく> 冊子18ページ

$a_0 = 0$ として a_0 を決めておくと、
漸化式は $n \geq 0$ でも成り立っている。

任意の自然数 k について $a_{2k} - a_{2k-2} = a_{2k-1}$ が成り立つので、

$$\begin{aligned} a_1 + a_3 + \cdots + a_{2n-1} &= \sum_{k=1}^n a_{2k-1} \\ &= \sum_{k=1}^n (a_{2k} - a_{2k-2}) \\ &= a_{2n} - a_0 \\ &= a_{2n} \end{aligned}$$

偶数番目の和も同様